



コースコード : TO-PYTHONP

税込価格 : 224,400円 (税抜価格 : 204,000円)

日数 : 3日間

トレーニング内容

Pythonを実務で活用するための具体的なコード例やノウハウを確認し、より効率的に開発を進めるために必要な知識を習得することができます。

ここに注目!!

本トレーニングは、「Python3エンジニア認定実践試験」の出題範囲の主教材である、「Python実践レシピ」本をテキストとして実施いたします。

Pythonを仕事で使っている方、またスキルアップしたい方におすすめです。

対象回限定で受講料が最大30%OFFになるキャンペーンを実施中！

詳細は [こちら](#)

ワンポイントアドバイス

本トレーニングは、「Python3エンジニア認定実践試験」の出題範囲の主教材である、「Python実践レシピ」本をテキストとして実施いたします。Pythonを仕事で使っている人、またスキルアップしたい人におすすめです。

受講対象者

このコースの受講対象者は次の通りです。

- ・ Pythonの基礎は理解できており、実務で活用してきたい方
- ・ 「Python3エンジニア認定実践試験」を受験される方

前提条件

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

- ・ Pythonに関する基本的な知識、プログラミング経験のある方

下記のコースを受講済み、または同等の知識を有する方

[Python初級編](#)
[Python中級編](#)

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

- ・Pythonを実務レベルで活用するスキルが身につき、仕事やプロジェクトで即戦力となることができる

アウトライン

Pythonの言語仕様

アンパック

内包表記、ジェネレーター式

ジェネレーター--generator

デコレーター

Pythonのクラス

dataclass

オブジェクト関連関数

型ヒント

型ヒント

日付と時刻の処理

日付や時刻を扱う--datetime

時刻を扱う--time

IANAタイムゾーンデータベースを扱う--zoneinfo

データ型とアルゴリズム

さまざまなコンテナー型を扱う--collections

列挙型による定数の定義を行う--enum

イテレーターの組み合わせで処理を組み立てる--itertools

汎用OS・ランタイムサービス

OSの機能を利用する--os

ストリームを扱う--io

インタープリターに関わる情報を取得、操作する--sys

コマンドラインオプション、引数を扱う--argparse

ファイルとディレクトリへのアクセス

ファイルパス操作を直観的に行う--pathlib

一時的なファイルやディレクトリを生成する--tempfile

高レベルなファイル操作を行う--shutil

特定のデータフォーマットを扱う

CSVファイルを扱う--csv

JSONを扱う--json

INIファイルを扱う--configparser

Excelを扱う--openpyxl

インターネット上のデータを扱う

URLをパースする--urllib.parse



URLを開く--urllib.request

ヒューマンフレンドリーなHTTPクライアント--Requests

Base16、Base64などへエンコードする--base64

電子メールのデータを処理する--email

テスト

対話的な実行例をテストする--doctest

ユニットテストフレームワークを利用する--unittest

モックを利用してユニットテストを行う--unittest.mock

デバッグ

対話的なデバッグを行う--pdb, breakpoint

コードの実行時間を計測する--timeit

ログを出力する--logging

暗号関連

安全な乱数を生成する--secrets

ハッシュ値を生成する--hashlib